

製品名: PBK ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15806**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	36kDa

抗原情報

遺伝子名	PBK
別名	PBK; TOPK; Lymphokine-activated killer T-cell-originated protein kinase; Cancer/testis antigen 84; CT84; MAPKK-like protein kinase; Nori-3; PDZ-binding kinase; Spermatogenesis-related protein kinase; SPK; T-LAK cell-originated protein kinase
遺伝子 ID	55872.0
SwissProt ID	Q96KB5
免疫原	抗血清はヒト PBK/TOPK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

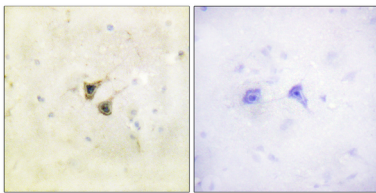
背景

PDZ 結合キナーゼ(PBK) Homo sapiens この遺伝子は、二重特異性マイトジェン活性化プロテインキナーゼキナーゼ (MAPKK)ファミリーに関連するセリン/スレオニンプロテインキナーゼをコードしています。有糸分裂時のリン酸化がその触媒活性に必要であることが示唆されています。コードされているタンパク質はリンパ球の活性化に関与し、精巣機能をサポートし、精子形成の過程で何らかの役割を果たしている可能性があります。この遺伝子の過剰発現は腫瘍形成に関係していることが示唆されています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2013年7月],触媒活性:ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質,酵素調節:リン酸化によって活性化,機能:MAP キナーゼ p38 をリン酸化します。有糸分裂時にのみ活性化するようです。リンパ球の活性化にも関与している可能性があります。リン酸化されると TP53 と複合体を形成し、ドキシソルビシン誘発性 DNA 損傷時の TP53 の不安定化と G2/M チェックポイントの減衰を引き起こす。、PTM: リン酸化され、細胞周期依存的に有糸分裂時に活性化される。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼキナーゼサブファミリー。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、サブユニット: DLG1 および TP53 と相互作用する。、組織特異性: 精巣と胎盤に発現する。精巣では、精細管の外層細胞に限定して発現する。、

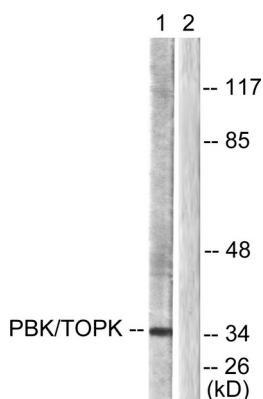
研究分野

細胞生物学

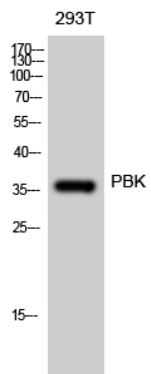
画像データ



PBK/TOPK 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



ノコダゾール 1 μ g/ml で 16 時間処理した COS7 細胞のライセートを PBK/TOPK 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



PBK ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いた 293T 細胞のウエスタンブロット解析